

## 第26回 高貴なる義務

小さい頃から塾に行き、受験の為にテクニックを学び、難関と言われる学校に入学する。目標は、名門大学に入学し、一流企業に就職すること。要点をつかむのが人より早くて成績がいい。仕事も要領よくスパコなして、出世も早い。親から観て、このような子供の成長ぶりは理想的であろうか？ある意味、“イエス”であろう。

けれど、社会人になってから“問題”を起こす人の中には、このような「エリート」が多いことも事実である。良く観察してみると、彼らの中には、そのような“頭の良さ”を自分の為だけに使っている場合が多い。他の人の脚を引っ張ったり、策をめぐらせて陥れたり、まるで自分が出世するため、自

分が得をするためだけに、自分の能力を開発しているようにも見える。その背景には、幼い時から「勉強は自分の為にするもの」と教え込まれてきたこともある。自己を向上させるために勉強は必要である。けれども、何のために自己を向上させるのかが曖昧なままに大人になってしまうと、初めての挫折を経験した時、ガラス細工のように脆くも崩れ去ることがある。

「勉強は、他の人や、世の中を良くする為にするもの」である。人の上に立とうとするのであれば、「人々の悩みや苦しみを知り、どうすればより多くの人を幸せに出来るのか」ということを見渡せる能力こそが求められる。そこに私心はなく、自己犠牲をも厭わぬ精神が宿る。これからの若者には、権利のみを主張するのではなく、「高貴なる義務」を果たす、本物のエリートを目指して欲しいと願う。



医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。

米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。

医療法人

きむら内科クリニック TEL 044(981)6617

麻生区片平5-24-15 きむら内科クリニック 麻生区 検索